

# S クリートアップ

浸透性珪酸塩系コンクリート改質・強化材

## 施工要領書

**BIRCS**

株式会社バークス環境

## 施工基準 (Standard application procedures)

### 塗布可能な素地

コンクリート・セメント系の素地

### 施工前の確認事項

- ・ 新築のコンクリート構造物に対し、乾燥収縮ひび割れ抑制を目的とする場合は別商品 (Sクリートキュア) を、脱枠直後のコンクリート躯体に塗布してください。改質・強化を目的とする場合は、新築の場合、打設後28日以上経過後に S クリートアップを塗布してください。
- ・ 施工可能環境は 5 度以上、45 度以下の範囲です。

### 施 工

#### 1. 準備

温度を確認 (5°C以上 45°C以下) してください。

#### 2. 養生

ガラス、鉄部、アルミサッシ、樋、手摺、自動車など。

- ① 特にスプレーを用いて施工を行う場合には、周囲に液剤が飛散するおそれがありますのでしっかりと養生を行ってください。
- ② ガラス、鉄部、アルミ等浸透しない物質に付着すると、乾燥後に白い結晶が付着する場合がありますので、しっかりと養生を行ってください。

[注意] S クリートアップはコンクリート物質にのみ有効であり、そのほかの素材とは反応しません。

#### 3. 下地処理

- ・ クラック補修 (Sクリートクラック工法)  
予め幅 0.2mm より大きいクラックやジャンカ等の補修を行ってください。  
※クラック箇所の補修にはクラック内部に S クリートアップを塗布・注入した後にSクリートクラック充填材をすり込んでください。
- ・ 清掃・洗浄  
素地表面が汚れている場合には、高圧洗浄またはケレン処理などで施工面のカビや苔、油脂などの汚れを落としてください。  
※ 高圧洗浄に際して酸性の洗剤を使用した場合は、必ずアルカリ洗浄剤にて中和処理を行ってください。(弊社にてアルカリ洗浄剤を提供しております)  
※ 中和処理を行わずに S クリートアップを塗布すると、S クリートアップの効果が著しく低下します。

#### 4. 塗布

施工道具： ローラー(短毛のウーローラー、マイクロファイバーローラー)、刷毛、噴霧器

・下地処理を終えたら刷毛・ローラー、またはスプレーを用いて S クリートアップを塗布します。塗装前の低圧散水は不要です。直接素地に S クリートアップを塗布してください。素地が湿っている程度ならば S クリートアップを塗布することができますが、水溜りが残るほど濡れている場合には水分を十分に拭き取るなどの処置を施してから S クリートアップの塗布を行ってください。

・塗布は、1 回目に塗布した S クリートアップが十分に浸透した時点で、2 回目の塗布を開始できます。1 回目の塗布面が乾燥した後も 2 回目の塗布を行えます。

・塗布・未塗布箇所の判別が困難なため、途中で作業を中断する場合には施工済みの箇所を区別できるような目印を入れてください。

[注意] ガラスや金属等に S クリートアップが付着した場合、濡れタオルでふき取った後に、ブラシ等でこすりながら流水で洗い流してください。そのまま放置した場合、白い結晶物質が付着する場合があります。

#### 5. 標準使用量

##### S クリートアップ 塗布量の目安

新築・経年したコンクリート	4～5 m <sup>2</sup> /ℓ	(200～250 cc/m <sup>2</sup> ) 2回塗布
ポーラスなコンクリート	2～3 m <sup>2</sup> /ℓ	(300～500 cc/m <sup>2</sup> ) 3回塗布

## 6. 乾燥時間

約 2 時間～数日(コンクリートの品質や環境によって異なります)。コンクリート内部に多量の水分・湿気が蓄積している場合には、内部の水分が表層に上がってくることもあり完全に乾燥するまで日数を必要とする場合があります。これは S クリートアップが内部の余剰な湿気を排出しているためです。

## 7. 再塗装

経年や環境の影響などによりの著しい劣化が見られ、S クリートアップの再塗装が必要な場合には、クラックなどを個別補修後、汚れを除去した上で S クリートアップを再塗装できます。過去に塗布された S クリートアップに対する特別な処置は不要です。

## 8. 使用上の注意

- 降雨が予想される時には施工しないでください。必要に応じて養生を行ってください。
  - 環境温度 5℃以上から施工可能です。
  - 養生が必要な箇所：
    - ・ ガラス:付着すると結晶成分が析出します。なお、結晶成分はメタノールかシンナーにて除去可能です。
    - ・ 金属類:金属類に付着すると結晶成分が析出します。
    - ・ タイル・石材:結晶成分が析出し、白く結晶化します。
- ※もし付着した場合、速やかにウエス等で拭き取れば問題ありません。
- 原液のままご使用ください。水で希釈しないでください。
  - 既に風化および劣化が進行している素地への塗布についてはご相談ください。
  - 現場周辺住民や現場作業者の安全確保のため、材料が周辺に飛散ないように飛散防止措置を行ってください。
  - 余った材料を処分する際は、必ず専門処理業者に依頼してください。
  - 材料が目や口に入った場合や、直接皮膚に触れた場合には、直ちに流水で洗い流してください。異常を感じた場合には専門医に相談してください。

## 【その他】

1. **使用前の色**：無色透明
2. **表面の仕上がり**：変化なし(素地本来の質感や色が保たれます)。既設コンクリートの部分補修の場合には、塗布面と未塗布面の境目に色調の変化がみられる場合がありますので、事前に試験施工を行うことをお勧めいたします。

## 【荷姿】

18L 缶・4L ポリ容器

## S クリートアップの特性

### プライマー効果

S クリートアップを2回塗布(及び規定塗布量)し、下地接着改善効果が堅調に現れます。塗料(ウレタン、エポキシなど)、炭素、アラミド繊維、ガラス繊維との密着が増し、寿命が大幅に伸びます。

### ひび割れの低減、既存のひび割れの進行抑制に高い効果を発揮

S クリートアップ 2 回塗布の後にコンクリート躯体内部の余剰水(湿気)の排出が始まります。必ず、内部の余剰水の排出が止まったことを確認した後に、ウレタン、モルタルなどを塗布してください。また必ず事前に試験施工を行ってください。

なお、余剰水の排出期間は躯体のコンディションによって異なり、数日程度から数週間におよぶ場合があります。

特に、ウレタンやモルタルなどの上塗りを行う場合には、余剰水の排出が完全に終了したことを確認してから施工してください。

(作業手順)

S クリートアップ 1 回目塗布⇒S クリートアップ 2 回目塗布⇒余剰水の排出⇒上塗り塗装

#### ・内側(室内側)より漏水を止水

S クリートアップは内側から漏水を止められます。貫通クラックからの漏水はSクリートクラック工法にて補修後、十分に2回以上漏水部に塗布します。

#### ・中性化したコンクリートをアルカリ回復させる

50mm以上深く浸透し、中性化したコンクリート表層部をアルカリ回復させ、鉄筋の防錆に効果を発揮します。

#### ・コンクリート強度の向上

未水和の水酸化カルシウムをケイ酸カルシウムに変換し(ポゾラン反応)微細な空隙を充填する為、曲げ強度・圧縮強度が15%程度向上します。

## S クリートアップを下地として使用した場合の塗膜延命の理由

湿気が多い環境においてコンクリート内部の湿度が高くなると、アルカリ成分が不安定となり、アルカリ成分が被覆体と化学反応し、コンクリート表面の被覆(塗料・炭素、アラミド繊維、ガラス繊維など)が剥れやすくなります。S クリートアップはコンクリート内部を緻密化することで過剰な湿気を排出し、湿気の滞留を低減します。また、アルカリ物質を安定化させる効果によって被覆体の延命化となります。